



NAGOYA CITY UNIVERSITY EAST MEDICAL CENTER

初期臨床研修医・後期臨床研修医 研修ガイド

名古屋市立大学医学部附属
東部医療センター



名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター

許可病床数 498床 (令和6年4月)

診療科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、
 脳神経内科、血液腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、
 感染症内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、
 脳神経外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、形成外科、
 精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、
 耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、
 放射線治療科、救急科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔外科

病院機能

臨床研修病院、卒後臨床研修評価機構認定病院、
 日本医療機能評価機構認定病院 (3rdG : Ver.2.0)、
 三次救急指定医療機関、地域医療支援病院など

数字で見る東部医療センター

- 医師数.....113人*
- 初期臨床研修医数.....27人*
- 後期臨床研修医数.....31人*
- 1日平均外来患者数(令和5年度).....837人
- 1日平均入院患者数(令和5年度).....400人
- 救急搬送件数(令和5年度).....8,149件
- 手術件数(令和5年度).....5,180件
- 内視鏡検査件数(令和5年度).....5,818件

*令和6年4月現在



● 基本理念 ●

1. 医師としてふさわしい人間性と能力を養う。
2. 医学及び医療の果たす社会的役割を認識する。
3. プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身に付ける。
4. 患者を全人的に理解し、尊重するよう努める。

● 基本方針 ●

- 患者の呈する症状、身体的所見、検査所見に基づいた鑑別診断及び初期治療を的確に行える能力を修得する。
- 医療チーム構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調・協力する習慣を身に付ける。
- 患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付ける。
- 急性期医療を中心として、科学的根拠に基づいた良質な医療を提供するよう努める。
- 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献する能力を身に付ける。

初期研修の特色

- 1 三次救急病院として救急搬送件数が8,000件以上、豊富な症例をファーストタッチで経験でき、医師としての土台作りに貢献。
- 2 平成27年3月に新しい救急・外来棟を開棟、救急・集中治療部門、手術室がさらに充実。
- 3 臨床研修センターがサポート、適度な規模でアットホームな雰囲気の中、総合的な知識と技術が習得可能。
- 4 救急症例検討会、抄読会、スキルアップ講座、シミュレータ研修などのプログラムが完備。など

表で見る初期研修プログラム例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年次	テオリエンテーション	内科					救急科	麻酔科	外科	泌尿器科	整形外科	産婦人科	
2年次	小児科(西部)	救急科	精神科(名古屋市大)	地域医療	外科	選択科目							

- 各科の専門医が充実しており、ローテートで専門医から指導を受けられます。
- 選択科目で名古屋市立大学病院、西部医療センターをはじめ研修協力病院・施設にて指導を受けることができます。



良き研修はここにあり! 救急医療で大きな自信を 臨機応変なプログラムでキャリアの土台として最高の研修に

東部医療センターの初期研修の最大の強みは、救急医療の最前線に立ち続けることにより、当院での2年間の研修を乗り越えた後は大きな自信を得ることができる点にあります。指導医の数に対して研修医の定員が適正であり、十分な指導を受けられる体制が整っています。

臨床研修センターでは、研修医に担当指導医を当てるメンター制を導入しており、研修に関する希望、疑問、悩みなどを相談できます。また、臨床研修センタースタッフとともに、スケジュールの調整、労働環

境の整備などを行なっています。プログラムの内容も希望に合わせて調整が可能で、きめ細かい指導を心がけています。

大学病院化により多様な指導医が増え、三病院の連携によってこれまで以上に多彩な選択肢が提供できるようになります。当院での研修が皆さんのキャリアの土台として最高に良いものとなるよう、センタースタッフ一同、日々努力して参ります。一緒に頑張ってくださいませ。



臨床研修センター長
山田 健太郎 (脳神経内科)
Kentaro Yamada

手厚い指導や幅広く学べる環境！ 充実した2年間をすごせること間違いなしです



鈴木 征巧 (2年目研修医)

Masayoshi Suzumura

—1年目と2年目でローテート科での役割は変わりますか。

1年目も2年目も、ローテート科で担当する患者さんが割り当てられます。1年目は、上級医の先生が行っている検査や治療をみて、なぜそのような診療が行われているかを考えたり、上級医の先生に教えていただいたりすることが多いですが、2年目になると、入院された患者さんの検査や治療などをまずは自分で考え、上級医の先生と相談しながら、主体的に診療を行うようになります。また、外科系では執刀医として手術をすることもあり、志望科が決まった後は後期研修に向けて実践的な研修をしていきます。

—自分で1年目からの変化に気づく事がありますか。

2年目になると後輩ができるため、後輩と関わる時間の多い救急外来で、特に自分の変化に気づくことが多いです。

1年目のはじめは仕事を覚えることに精一杯でしたが、1年を通して色々な症例を経験することで、患者さんに対してどのような検査や治療を行っていけばよいのかを考えながら、診療にあたるできるようになりました。また、1年目は救急外来で自分が担当する患者さんしかみえていませんでしたが、2年目は1年目から相談されることも多いため、救急外来全ての患者さんの状況を把握するようになりました。そこは視野が広がったと思います。

—外部の病院ではどんなことを研修しますか。

研修2年目になると、自分の志望科に沿って協力している外部の病院へ研修に行くことができます。私の場合は、傷の処置や縫合の仕方などを学ぶために名古屋市立大学病院の形成外科に行ったり、他の病院の救急体制を学ぶために愛知医科大学病院の救急科に研修に行き、ドクターヘリにも乗ったりすることもできました。名市大の附属病院群を始め、その協力病院での研修を選択できるのも魅力の一つです。

—後期研修についていつ頃どうやって決めましたか。

私は2年目の5月頃に志望科を整形外科に決めました。決め手としては、1年目で色々な診療科を研修し、手術や患者さんの診察をする中で、整形外科の手術の前後で患者のQOL向上が目に見えてわかる点がいいと思いました。

当院は内科・外科ともにシニア(若手)の先生が多く、年次が近いため話もしやすいですし、ロールモデルとして自分が後期研修をしている姿を想像しやすいです。入職する時に志望科が決まっていなかったり迷ったりしている人もいると思いますが、働いてみないとわからないことも多いので、勤務する中で色々な先生のお話を伺って、決めていくことが大切だと思います。

—初期研修2年間を東部医療センターで過ごした感想を教えてください。

楽しかった思い出ばかりで、辛かったことはあまりないですね。楽しく仕事ができる環境であることに加え、やり甲斐も感じることができました。同期は仲もいいですし、指導医の先生方も優しい方ばかりで指導体制もしっかりしています。加えて、救急やそれぞれの診療科で患者さんに関わる機会がとても多く、患者さんの安心した顔をみたり、「ありがとう」と言われると医師になってよかったなと改めて思います。

また、プライベートな時間もちゃんととれるので、バランスよく充実した毎日を過ごせています。

—これから研修先を探すみなさんへアドバイスをお願いします。

臨床研修病院を選ぶ基準は人それぞれですが、東部医療センターは研修内容や指導体制など、どの面からもバランスが良いのが特徴です。選んで後悔しないと思いますので、候補として検討してみてもいいでしょうか。公私ともに充実し、明るく楽しい研修生活が送れると思います。

多くの症例にふれ、しっかり学ぶことができます どの先生も優しく指導して下さいます



高細 旭 (1年目研修医)

Akira Takaboso

—東部医療センターを初期研修病院に選んだ理由は 何ですか。

救急医療を学びたいと考えていた中で、救急に力を入れている病院であり指導体制も整っていると感じたのが一つです。救急科の先生や上級医に相談しやすい環境で救急を学ぶことができるのは魅力的だと感じました。また、研修医や上級医の先生方、スタッフの皆さんの雰囲気がとても良いというのも一つの理由です。見学に伺った際に、特に優しく丁寧に接していただいたのが印象的でした。

—ローテート科ではどんな研修を行っていますか。

上級医の指導の下で担当の患者さんを受け持ち、病棟管理や処置について学ぶことができます。その他にも例えば外科系の診療科なら手術に入り手技を学ぶことができますし、内科系の診療科ならカテーテルや内視鏡検査などの業務に参加でき、経験を積むことができます。希望すれば検査や手術なども一部やらせてもらえることもあります。研修するうえで自分の希望に沿って指導いただけますし、興味や意向に合った研修が可能だと思います。また、上級医の先生方はみなさん優しく指導して下さるので、積極的に診療に参加し質問をして知識を深めていくのが良いと思います。時間としては基本的に定時に終了しますし、当直明けも帰るのが原則ですので、無理な働き方はないと感じています。

—研修はどのような指導体制で行っていますか。

各ローテート科を約1ヶ月単位でローテートしていきます。各科で上級医や指導医の先生方の指導を受けます。ローテート科以外では症例検討会や診療科の先生によるスキルアップ講座等があります。症例検討会では、研修医が経験した症例で勉強になったことを共有し学びを深められますし、スキルアップ講座では、救急外来で患者さんを診療する上でのポイントを教えていただいたりしています。

—当直は月どれくらいありますか。また、どんなことを しますか。

当直は月5回前後あります。救急車・ウォークインどちらも1年目の4月からファーストタッチに入り、問診や検査を行います。その結果を評価して上級医に相談し、入院または帰宅の判断を仰ぎます。1年目の最初から救急車からの対応をすることができるので、多くの経験を積むことができます。最初はわからないことだらけでしたが、上級医や2年目の先生がいるので、相談しやすく安心して診療に当たれます。また、患者さんを帰宅させる場合は必ず上級医にコンサルトするという決まりがあり、研修医だけで帰すことはないので、体制としても安心だと思います。

当直が終了した後は救急科の先生による振り返りがあり、当直の症例についてのフィードバックを得ることができます。診療内容や行った検査が適切であったかどうか、一つ一つの症例についてじっくりと学ぶことができるのが良い点だと思います。

—研修をしているなかでのやりがいは何ですか。

救急外来や病棟で患者さんを助けることができ、患者さんやご家族から感謝された時の感動は大きいです。自分が診療を行い、患者さんを助けたという実感はやりがいに繋がります。また、初めて自分一人で処置を行ったり、手技を成功させたりした時には達成感を感じます。それ以外にも創傷の縫合、エコーや内視鏡検査など、実際に患者さんの治療に関わる中で手技を習得するたび、医師としての実力がついていくことを実感できます。

—学生のみなさんへメッセージをお願いします。

東部医療センターはプライベートも含めバランスのとれた研修を行うことができると思います。僕自身も選んでよかったと思うので、みなさんもぜひ研修病院の候補として検討してみてください。

東部医療センターでは、医師免許取得後3～5年目の方を後期臨床研修医(シニアレジデント)として専門研修プログラムを実施しています。



東部医療センターでは内科・救急科の基幹施設として、専門研修プログラムを提供しています。自由度の高い実践的な専門研修により、一人ひとりのキャリアゴールに向けて、臨床経験豊富な指導医一同、全力でサポートします。また、基幹施設となっていない基本領域のうち、東部医療センターは14領域の専門研修プログラムにおいて連携施設となっています。

専門研修プログラムデータ

	募集人員	医師数	専門医数	外来数 (1日平均)	入院数 (1日平均)	手術数 (年間)
内科	10	40	28	421	218	12
救急科	3	5	5	34	1	1

基幹施設としてのプログラム以外でも、名古屋市立大学病院等の専門研修プログラムの連携施設として、西部医療センターで専門研修を行うことができます。

内科	小児科	皮膚科	精神科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理	救急科	リハビリテーション科	総合診療
●	□	□		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	●	□	□

●: 基幹施設 □: 連携施設または関連施設





内科専門研修

病院長補佐
前田 浩義

【主な研修施設】

〈基幹相互連携施設〉

名古屋市立大学病院、西部医療センター、
豊川市民病院、海南病院、公立陶生病院

〈地域医療密着型連携施設〉

旭労災病院、知多厚生病院、稲沢厚生病院、
三重北医療センターいなべ総合病院

〈特別連携施設〉

みらい光生病院

【プログラムの特徴】

- 当院を基幹施設として、名古屋市内およびその近郊の医療圏（愛知県尾張・三河、三重県東部医療圏）にある連携施設・特別連携施設における内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるようにします。
- 研修期間は基幹施設1年間以上+連携施設・特別連携施設1年間以上で合計3～4年間になります。
- 心臓血管センター、脳血管センター、内視鏡センターなどとともに、ICU・CCU・HCUを整備して様々な救急疾患に即応できる体制および設備を整えており、豊富な救急症例を経験できます。

【研修生へのメッセージ】

名古屋市北東部医療圏の中心的な急性期病院である当院と、近隣にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指していただきます。



救急科専門研修

病院長補佐
松嶋 麻子

【主な研修施設】

愛知医科大学病院
藤田医科大学病院
堺市立総合医療センター
一宮市立市民病院
刈谷豊田総合病院
独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院

【プログラムの特徴】

- 救急医療の中心を担う専門医を育成するプログラムです。愛知県では各診療科が救急医療に協力する体制が整っており、そこで救急医に求められるのはすべての救急患者の重症度・緊急度を見極め、必要な診断と初期治療を行い、適切な診療科や医療・介護サービスへ引き継ぐことです。多発外傷や広範囲熱傷、重症中毒など適切な診療科がない場合は、自分で重症患者の診療も引き受けます。これらの能力は今後起こり得る災害の多数傷病者の対応においても大きな強みとなります。
- 東部医療センターの救急科専門医プログラムでは、東部医療センターの研修に加え、連携施設で少なくとも1年間、三次救急を重点的に研修する期間を設け、重症患者の初療から回復期までの診療を学びます。軽症から重症まで、先を見通した救急診療ができるようになることが目標です。

【研修生へのメッセージ】

初期研修の2年間では、救急外来の患者一人一人について重症度・緊急度に応じた対応ができることを目標とします。救急科専門医は救急外来で同時に複数の患者に対し、患者の予後を見据えた初療を行います。時には自分で重症患者の診療を担うこともあり、これらに必要な能力を専門医プログラムで研修します。状況を俯瞰的にみてマネージメントすることが得意な人にお勧めです。



初期臨床研修医・後期臨床研修医の勤務条件

*勤務条件等は令和4年4月現在のものとなります。

初期臨床研修医

- 勤務時間 平日8時45分～17時15分
(途中休憩1時間あり)
- 宿日直勤務 有り(宿直後は勤務なし)
- 給料月額 400,000円
- 通勤手当 自動車等又は公共交通機関による通勤者へ支給あり
- 研究研修費 100,000円/年
- 年次休暇、忌引休暇、夏季休暇などあり

後期臨床研修医 (シニアレジデント)

- 勤務時間 平日8時45分～17時15分
(途中休憩1時間あり)
- 宿日直勤務 有り(宿直後は正午まで勤務)
- 給料月額 548,000円(調整額を含む)
- 緊急呼出業務手当 支給あり
- 通勤手当 自動車等又は公共交通機関による通勤者へ支給あり
- 研究研修費 200,000円/年
- 年次休暇、忌引休暇、夏季休暇などあり

子育て支援制度

- 院内保育所あり
- 基本保育、延長保育、病後児保育のほか週2回の夜間保育あり(宿直時の夜間保育料無料)
- 育児休業(無給)、部分休業(無給)、子の看護休暇(有給)などあり



院内保育所



院内コンビニ



見学などのお問い合わせ先

名古屋市立大学医学部附属 **東部医療センター**

〒464-8547

愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号

管理課庶務係 臨床研修担当

TEL : 052-721-7171

E-mail : res.emc@med.nagoya-cu.ac.jp

